令和５年度第１回宝塚ボランタリープラザ zukavo 運営委員会

日時：令和５年４月 28 日（金）13：30～15：30
会場：ぷらざこむ１　会議室 21
出席者：福島、平原、岡本、岡田（英）、東、遠座、池本、平尾、大西
（事務局）山本、宮田、大関、石原　（名簿順・敬称略）

３．協議事項
（１）副委員長選出
・副委員長を学識経験者が担うのが続いている。変えていった方がいいのではないか。
→ワーキングで議論したいきさつを知っている人にお願いすることで、基盤が作れるのでないかと思っている。
・人が変わることで色んな人の能力が発揮される。そのために任期も設けている。一人の人が複数の役職を兼ねるよりも分散させる方が何か生み出されるのでは。
・成果を１年単位で出すのは難しい。変わっていくことも大事だが煮詰まっていかない側面もある。
・zukavo として企業等も巻き込んでいくことを考えているのであれば福祉に関心のある事業者から副委員長になってもらえれば目指している方向性に合うのでは。

（２）配分委員選出
・前期お願いした中山委員は違う視点で意見をたくさんいただいた。もし可能であればもう一期お願いしたいと思っている。
・本人が欠席で決めるのもおかしい。公平ではない。
・昨年度の運営委員会で情報開示等のことを議論していただいた。それを配分委員会で話し合ってもらうために、継続してもらうのがいいのでは。
・黒木委員もいいのではないか。
・本人がおらず確認ができないので決定ができない。
・推薦があったとお二人にお伝えして意思を確認する。
・いつまでに決めるのか。
→令和５年度の審査が５月の中旬にあるので、それまでに決めなければいけない。
・意思表示を書面でいただいて賛否をとることもできる。
→対面で決めないやり方をやりたくない。
・決めるプロセス自体に矛盾がある。４月にならないと委員が決まらず最初の会議に全員が参加できるわけではないので無理がある。もう少し早めに決められるようなしくみが必要。
・今後出席者の中から決める、という決まりが必要ではないか。推薦された方の意思も分からない。推薦された人にも推薦する権利がある。
・公平性のために仕組みを整理したほうがいい。立候補・推薦・委員長からの指名など。
・中山さん、黒木さんを推薦。お二人の意思確認の結果を運営委員に共有する。

４．報告事項

（１）設置要綱

・略称は「プラザ」ではなく「zukavo」の方がいいのではないか。（※４カ所）

・「ボランティア・市民活動」は「ボランティア活動、市民活動」ではないか。

・「民生委員・児童委員」も共通で「、」「・」を使ってほしい。

→「民生委員・児童委員」と併記するのが正式名称。

（２）事業について

・セルフヘルプグループについて、市広報１２月号の特集記事に掲載が採択された。

・社協はネットワークづくりが大事なので、単発で終わらずネットワークがつくられていく意識は持っておいてほしい。プロセスに活動者・住民に関わってもらうことも考えておいて欲しい。

・ロードマップの情報量が少ない。人や協力者が変わった時に対応できるものをつくってこそ意味がある。根拠が分かればもっと早く進める方法もあるが、根拠もあいまい。

・LINE の登録者数の根拠は？

→令和８年度までに 500 人を目標にしているので、単年度でみると今年度は 300 人。登録者を増やしてボランティア募集を情報発信していきたい。

・目標設定は数字がすべてではない。この目標を達成したらこういうことができる、という意図がなくてはいけない。

・LINE の登録している人は市内の人が登録しているとも限らない。宝塚で活動したい人を増やす目標が必要。単純に登録者が増えたからといって活動者が増えたとは思わないように。

・登録者にアンケートをとってみたらどの層が多いか分かる。

・LINE は気軽に登録できる。住所地は違うかもしれないが、興味をもって登録して、自分たちの活動に反映させようと思う人もいる。分析にそこまで時間をかけるより、他のところに力を注ぐことも必要。

・事業として実施しているのであれば数が重要。市民活動の活性化の事業が必要。分析はした方がいい。

・SNS は閲覧者がどこの人かは分からない。ただ見てもらうだけでなく、その人たちと繋がっていくことを考えていってほしい。

・ロードマップの矢印が終わっていない。本来終わらせるために事業を行っていくべき。

・一つ一つの事業は単年度の事業計画があると思うので、共通認識としてもっておければ。

・目標があるのとないのではプロセスとスピードが変わってくる。そういう意味で５年度にこうありたい、というのは見えるようにしておいてほしい。

・福祉教育の 32 から 33 にする意味は何か。

→市の目標値と合わせている。コロナ前は同程度の 32 校くらいが zukavo の助成金を受けて実施していた。コロナ禍で 19～20 校くらいに減っている。令和６年度の 33 校は今年度よりも１校でも増やしていきたいという気持ち。zukavo の助成金を受けずに実施しているところもある。

・zukavo としては全校に実施してほしいと思っているのではないか。お金をもらっていないところにはいかなくていいということにはならない。

→一定の指標として助成金を受けて実施しているところを出しているだけ。それがすべての評価にはなっていない。zukavo を通して実施しないといけないと決まっているわけではなく、学校が計画を作

成して実施し、zukavo は後方支援をしている。

・異動などで人が変わっても止められないのが地域福祉。変わった人がその日から動けるようにしておくのがロードマップの役割ではないか。

・単年度の計画を出したら数年後のことが分からないと言われ、大きい計画を出すと細かいことが分からないと言われる。単年度の計画も 5 か年計画も両輪でどちらも必要なので、確認したい時にできる状態にしておくことが大事。あくまで方向性の一つなので、一つ一つの事業を確認していくような場ではない。

3．協議事項

（3）ボランタリーフォーラム　後半のグループワークについて

・参加人数と参加者の想定は？

→活動者がメインだが、広く周知はするので関心を持っている方も参加してほしい。

定員は 80 名。部屋の規模とグループワークの事を考えると 80 名が限界。

・事前申込制か？

→事前申込にしている。告知の準備はできているので、今日の議論を踏まえて周知をスタートする。

・５月の 1 か月で 80 名集まる予想か。

→80 名来てほしいと思っているが、実際は 40～50 名くらいかと思う。

・気軽な気持ちで来た人にはグループワークはハードルが高い。

・案 1 の①～⑤はテーマが大きすぎて話しにくい。自分がどう zukavo を活用するかを話し合ってもらうのも一つ。交流メインならそのような方法もある。

・最終的にどこまでもっていきたいのか。zukavo のことを知ってもらい、みんなの顔合わせができれば、というところがゴールなら交流もいい。

・活動者もそうでない人も話せるテーマにした方がいい。ボランタリー活動ってどんなイメージ？くらいぼんやりしている方が何か発言はできるのでは。

・ボランタリー活動が分からない人が「これからのボランタリー活動」というテーマで人が集まるのか。今活動している人の悩み事が解決できると思ってもらえたら来てくれると思う。

・広報たからづか 5 月号に「ボランタリーフォーラム」として掲載済なので、名称はこのままでもいいが、ちらしに書くときに呼びかけのリード文を工夫をしてほしい。

・講演と交流会を切ってしまうと途中で帰ってしまう可能性がある。講演の中に自己紹介を混ぜてもらえたらグループワークの時にはもうすでに輪ができているような展開にできないか。それなら 45 分の交流でも十分時間がとれる。

・難しければ事前に自己紹介カードやアンケートを書いてもらう。大きめの紙に所属や呼び名を書いてもらう等はどうか。

・ボラセンと zukavo に求めることの違いは聞いてみたい。

・せっかくのフォーラムだが、zukavo から発信することは紹介動画だけなのか。他に発信することはないのか。

→早瀬氏に zukavo の方向性を交えてお話ししていただく予定。動画は会場からずっと繰り返し流す。

冊子も配布予定。

・zukavo のやっていることは多岐に渡るからこそたくさん書きすぎてわかりづらい。例えば…というのがあればいいと思う。
・疑問をもってもらえたらいいのでは。これって何？という疑問が出た時点で関心がある。
・ひとことでわかるキャッチコピーがあって、心を捉えられたらいい。「自分たちのまちを自分たちでつくろう」という取り組み。それを支援するところが zukavo で、移動カフェや相談、助成などをしている、というように伝えていった方が分かりやすい。
・コンテンツは多い方がいい。大まかなものから細かく説明しているものまでいろんな資料があった方が見てくれるチャンスはある。
・子どもに説明するなら、自分が何かしたいと思ったときに訪ねていく場所。もし自分が障害を持った時の生活の相談相手。仲間が出来る場所。つながるためのプラットフォーム。活動するための仲間やボランティア同士がつながれるかもしれないし、悩みを共有したり解決方法を見つけることもできるかもしれない。つながる場所、というイメージ。職員はそれをサポートしてくれる人。動かしていくのは市民で、何もかもを職員がしてくれるわけではなく、つながるきっかけづくり。
・zukavo と福祉センターの一番違うところは、お客様感覚がないところ。職員とのやりとりだけでなく、ボランティア同士のやりとりが多いのが面白い。
・来てもらったら後悔させない、絶対に悩みごとをとる、くらいの意思があれば売り出せる。
・今話を聞いていると、出会って、つながる、自由に、というのがキーワード。
・異色のつながりや見えないつながり、ジャンルを超えたつながりの素敵さを伝えられたら、すでにつながりをもっている人たちにとっても発展していける。
・ゲーム感覚で楽しめるようなものにできれば。ＨＵＧゲームのように答えが大事なのではなく、話し合うことが目的にするなど。
・交流が終わった時にグループで連絡先を交換できるくらいまでいければ成功。
・名刺交換や寄せ書きをコピーして渡す等。
・フォーラムで公式ＬＩＮＥの登録を促すのはどうか。こういう講座を実施したときにどれくらい増えたかを見ておくのもいい。